



第11回ネットワーク工事機材展 10G対応製品が定着 多様な測定器に注目集まる

10月11日～12日の2日間、配線工事ビジネスの専門展示会「ネットワーク工事機材展」が開催された。今年は10G対応が当たり前となり、次世代ネットワーク(NGN)対応の製品も登場した。

文 藤田 健(本誌)

今年で11回目を迎えたネットワーク工事機材展(主催:リックテレコム、後援:NPO高度情報通信推進協議会、全日本電気工業組合連合

会、情報通信設備協会、BICSI日本支部、住宅情報化推進協議会、日本CATV技術協会)は、従来の東京・北青山の青山TEPIAから池袋サン

シャインシティ文化会館に会場を移して開催された。

広くなった展示会場には51の企業と業界団体が出展。各種ケーブルやコネクタなどの部材から配線システムラックや測定機器、さらに昨年10月に解禁となった高速PLC機器まで、ネットワーク工事全般に関連する製品を一堂に集めた。会場には2日間で昨年を上回る3896名が訪れた。

新コンセプトのケーブル

では、展示会場に出展された製品

を見ていこう。

通信興業は「TSUNET-EXシリーズ」の第2弾製品「TSUNET-EX FAC-LA AWG26-8C」を展示していた。EXシリーズは「TIA規格にとられない、使い勝手のよい製品」というコンセプトの下、情報配線に関する知識が豊富なユーザーをメインターゲットにしたもの。新製品は、AWG26という撚り線導体を採用してより細さを追求した現場成端可能なシールドScTPケーブルだ。

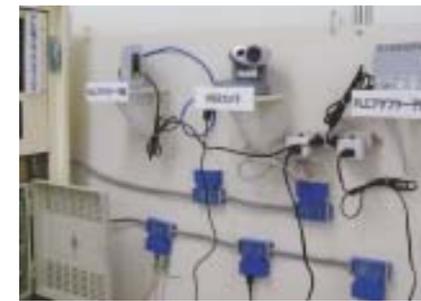
また、注目されている次世代の10GBASE-Tへの対応として、Augmented Cat6(Cat6a)対応UTPケーブル「TSUNET-10GE AWG23-4P」を参考出展していた。

10G対応のCat6aケーブルは、富士電線や東日京三電線も展示。日本製線は10G対応のScTPケーブルを参考出展していた。

光ファイバーケーブルでは、富士電線が注力している10Gbps対応の「10G bit Fiber 300シリーズ/500シリーズ」をアピールし、来場者の目を引いていた。

NGN対応テストも登場

測定器関連で活気があったのは



NECネットエスアイ(右)およびスズデン(左上)の高速PLCモデムを用いたソリューションと、プレミネットの次期高速PLCモデム(左下)

フルーク・ネットワークスのブースだ。特にアピールしていたのは統合型ネットワーク・アナライザー「OptiView

」で、「近日中に機能強化版を市場投入する」と担当者が語っていた(展示会後の10月16日に「OptiView V5.1」をリリースした)。また「DTXケーブルアナライザー」用に新たにラインナップした「OTDRモジュール」の展示スペース前では、来場者が入れ替わり立ち替わり説明に耳を傾ける姿が見受けられた。

アジレント・テクノロジーは、10Gイーサ対応のLANケーブルテスト「Agilent N2640A ワイヤスコープ・

プロ」を展示。Cat6/6a/7のケーブル試験が業界最速レベルの数秒程度で可能という。

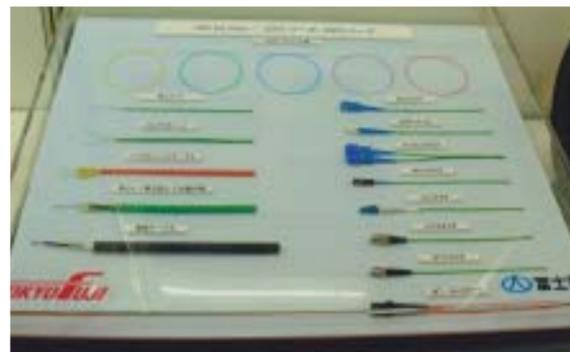
通信業界では、次世代ネットワーク(NGN)がホットなキーワードになっているが、NECネットエスアイはNGN対応ハンディテスタ「Access One」を展示。日本語表示に対応しており、NGNの回線品質を現場で手軽に測定できる。

法人市場を窺う高速PLC

昨年10月に解禁となった高速PLC関連では、松下電工が住宅用PLCタップを出展。またプレミネットが産業



通信興業「TSUNET EXシリーズ」の新製品



富士電線の10Gbps対応光ケーブル



フルーク・ネットワークスの「OptiView III」



NECネットエスアイの「AccessOne」



バンドウイトコーポレーション日本支社の光ファイバートレー&MTP



タイコ エレクトロニクス レイクムの「UCS」



技能五輪国際大会日本代表応援コーナーでは、競技デモ(写真右上)が実施され、周囲は黒山の人だかりとなっていた。左下は初日の応援トークショー。今回の日本代表・山口雄基選手(左)と前回のヘルシンキ大会で金メダルを獲得した小湊大輔選手(中央、ともに協和エクシオ)を招いた

両日行われた「テクニカル無料セミナー」は、ともに大盛況だった

用の次期高速PLCモデム、NECネットワークスアイとスズデンが法人向けのソリューションを展示するなど、個人市場だけでなく、今後の法人市場での広がりも予感させた。

このほかでは、パンドウイトコーポレーション日本支社は、昨年市場投入して好評の「NET-ACCESS キャビネットラック」や新製品の「光ファイバポートレー&MTP」等をアピールしていた。

タイコ エレクトロニクス レイクムは、高信頼性と低価格を実現した音声系端子板「UCS」(ユニバーサル・コネ

クションシステム)を中心に出展。

ヤマト通信工業はラック製品を中心に展示。「サイレントラック」「サイレントローラック」は騒音最大15dBカット、同時に最大4000W / 8000Wの放熱性能を実現するなどの特徴を備えた製品だ。

技能五輪国際大会を応援

今回のネットワーク工事機材展は、11月14日～21日に静岡県で開催された技能五輪国際大会に協賛。情報ネットワーク施工職種競技の応援企画として「日本代表応援コーナー」を

設置し、競技デモのほか、今回の日本代表である山口雄基選手と前回のヘルシンキ大会で金メダルを獲得した小湊大輔選手(ともに協和エクシオ)らを招いた応援トークショーも開かれた。

協賛企画に伴い、R&Mマーケティング・ホールディング日本支社など数社が、今回の技能五輪国際大会に採用された自社の製品群をアピールしていた。

展示場内特設会場で行われたテクニカルセミナーは、初日に技能五輪国際大会情報ネットワーク施工の競技委員長も務める職業能力開発総合大学の菊池拓男准教授が「光ファイバ施工技術とその効率化の検討」、2日目にNECインフロンティア・NW開発本部兼IPマーケティング戦略本部の小林佳和統括マネージャが「NGN時代のネットワーク提案と工事のポイント」というテーマで講演。ともに事前登録の段階から満席で、当日も大盛況だった。



ヤマト通信工業の「サイレントラック」



R&Mマーケティング・ホールディング日本支社の技能五輪国際大会採用製品群